

五十 初釜に招かれて挨拶

昭和五十六年一月三日 京都 都ホテル

榎本家（華峰、宗育両先生） 新年会

皆さん、おめでとうございます。私は榎本先生からご指導を受けておられる方々の末席につながる者であります。こういうおめでたい新年会に、特別のおはからいでお招きを受けましたことを誠にありがとうございます。

今、華峰先生は八十三歳といわれましたが、不肖私は三つ上、明治二十八年生まれで今年は満八十六歳であります。しかし、いたって修養が足りませんで、華峰先生の足下にもよれませんので、誠に恥ずかしく思っているであります。しかし少しでも修養を積まねばならないという熱意だけは失わないようにと努めていますので、こういうおめでたい新年会にお招きを受け、心を新たにして第一歩を踏み出す機会を与えていただいたことを思いますと、誠にありがたく、感謝の念で胸いっぱいあります。

お花とか、お茶とかいえば、皆さん十分ご承知の通り、人の心を清め、美しくしてくれるものであります。従ってその指導を受けて勉強しておられる方々に対しては非常に感心しているのであります。またそれを指導される方々に対しては、目にこそ見えませんが、世の中を清める・・・いわゆる浄化運動をして